

## 「被災地内看護職との協働による避難所・仮設住宅・在宅における看護活動（宮城班）第三報」

2020年12月1日

報告者：佐々木久美子 長尾理奈 千葉真也

## 1. 活動趣旨

令和元年東日本台風(台風第19号)による風水害被害を受けた宮城県大郷町土手崎地区において、2年ぶりに開催する収穫祭の場において、住民の健康状態の把握を行うとともに、住民が現在抱える健康課題に対して健康教育・保健指導を行うことにより、健康や生活に関する不安感の解消の契機とすることを目的とする。

## 2. 日 時

令和2年11月3日（火・祝） 9時15分～13時45分

## 3. 場 所

宮城県黒川郡大郷町 土手崎集落センター

## 4. 活動者

佐々木久美子（宮城大学）、長尾理奈（宮城大学院）、千葉真也（大郷町役場）

## 5. 協働団体

大郷町土手崎行政区、大郷町地域支え合いサポートセンター、大郷町社会福祉協議会、大郷町保健福祉課、日本赤十字社宮城県支部、宮城県臨床心理士会

## 6. 活動の実際

時 間	内 容
9:15	大郷町役場へ集合。 物品等を確認し、土手崎集落センターへ移動。※車両2台使用。
9:30	土手崎集落センターに到着。土手崎区長等へ挨拶を行い、集落センター内に健康相談・測定ブースを準備・設置する。 参集支援団体にて打ち合わせを実施する。
10:00	開会式実施後、屋外と屋内に分かれて活動している。 屋外にてペタンク、屋内にて健康相談・血圧測定・体組成測定を実施。 日本災害看護学会としては、健康相談・血圧測定・体組成測定を提供。 【健康相談利用状況】 14名利用。高齢女性の利用が多く、定期的な受診により疾病コントロールを図れている様子あり。ストレスをため込まない方法を実践しながら

	<p>生活を継続することが出来ている印象。</p> <p>【血圧測定利用状況】</p> <p>13名利用。内服により良好にコントロールできている人が多い。高血圧症と同時に脂質異常症や糖尿病による治療を行っている人が目立つ。</p> <p>80歳女性1名 160/100 mm Hgにて、要注意であることを伝達。</p> <p>【体組成測定利用状況】</p> <p>13名利用。児童生徒の他、20歳代の成人男性なども利用している。</p> <p>極端な痩せや、災害後～現在にかけての体重減少は見受けられないが、災害後およびコロナ禍における体重増加について話をされる人が多くあった。</p>
12:00	<p>昼食会開催。</p> <p>仕出し弁当やお茶類、菓子類の配布により、多世代・地域住民による共食の機会を楽しんでいる様子が見受けられた。</p> <p>普段の収穫祭は、炊き出し料理の振る舞いがあるが、今年度は感染症対策を目的として実施せず、仕出し弁当に収めている。</p>
12:40	<p>ビンゴゲーム実施。</p> <p>全員参加型のビンゴゲームを実施。行政区が主体となり運営。</p>
13:30	<p>閉会のあいさつ</p> <p>自宅を解体し、土手崎地区を離れる住民からの挨拶やエールあり。</p> <p>4世帯が町内の別地域に居住拠点を移すことを明かしつつ、今後の交流についても期待する発言が聞かれた。</p>

## 7. 所感

例年、行政区を中心として開催されていた収穫祭だが、昨年度は令和元年東日本台風により開催が困難な状況であった。コロナ禍によって開催決定について直前まで悩んだが、災害により生じた気持ちの落ち込みや、連続する禍への絶望感を払拭しようと地域住民の交流を深める機会としたい行政区の想いが開催へと導いた。

日本災害看護学会として関わった健康相談等においては、高血圧症や糖尿病等の基礎疾患を有する方が多く見受けられる一方、適切に受療行動をとることができている人がほとんどであった。身体活動量の低下も懸念されたが、生業とする農業や地域での交流を通じて大きく心身のバランスを崩す人も見られなかった。

家屋や生活状況の復旧や復興は概ね進んでいるが、地域全体の高齢化は進展し、地域の活力は徐々に低下していくことが懸念される。住民の自助・互助力によるコミュニティの持続と、当該自治体や各種団体等との連携した外部支援が今後必要となるだろう。

## 8. 活動写真および事業写真

(1) 健康相談の様子



(2) 屋外活動（ペタンク）の様子



(3) 昼食会の様子



記録 千葉真也